

## 平成 30 年度オオワシ傷病個体收容結果

表 4 平成 12～30 年度オオワシ傷病個体收容結果（平成 31 年 3 月 31 日時点）

年度 (平成)	交通事故	列車事故	風車衝突	不明衝突	感電事故	落水	鉛中毒	鉛暴露	栄養不良	不明	その他	(件)		收容個体数
												死体	生体	
12	1						12			4	1	9	9	18
13				1	2		7		1	4	1	9	7	16
14		1		4	1	2	5			2	1	11	5	16
15				3	2		9		2	2	1	12	7	19
16	4			1	5		8		3	3	2	14	10	24
17	3			1	4		1				2	9	2	11
18	3	3			2		2	1	4	1	4	9	8	17
19		3		2			8		2			7	8	15
20		1			2		7			7		14	2	16
21	3		1	5		1	1			2		5	8	13
22	2	2			2		2				1	8	1	9
23	2				1	1	5			2		6	5	11
24	4	1			1	1	2	1	1	1	1	6	6	12
25	2	4		3	4	1	2		1	6	1	10	14	24
26	1			2	2		3		2	3		7	6	13
27	2	7		1	1	2	2	4		2	1	12	10	22
28	3	5		1	3		3	1	1	6	1	16	8	24
29		11	1	4	4	1	1	1	2	2	2	18	9	27
30	4	8	1		1	1	2	1	2	13		26	6	32
計	34	46	3	28	37	10	82	9	21	60	19	208	131	339

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があるため。

平成16年度：感電事故と鉛中毒、その他（電線絡まり）と鉛中毒が原因と考えられる收容が計2羽

平成18年度：その他（羅網）と鉛中毒が2例、栄養不足と鉛中毒が原因と考えられる收容が計3羽

平成20年度：感電事故と鉛中毒が原因と考えられる收容が1羽

平成24年度：交通事故と鉛中毒が原因と考えられる收容が1羽

平成29年度：感電事故と鉛暴露が1羽、その他と落水が原因と考えられる收容が1羽

平成30年度：栄養不良と鉛暴露と考えられる收容が1羽

※3 「鉛中毒」は血中鉛濃度 0.6ppm以上又は肝臓中鉛濃度 2ppm以上、「鉛暴露」は血中鉛濃度 0.1以上～0.6ppm未満又は肝臓中鉛濃度 0.2以上～2ppm未満であったものを示す。

※4 「その他」の原因としては、油汚染、羅網、銃撃などがある。

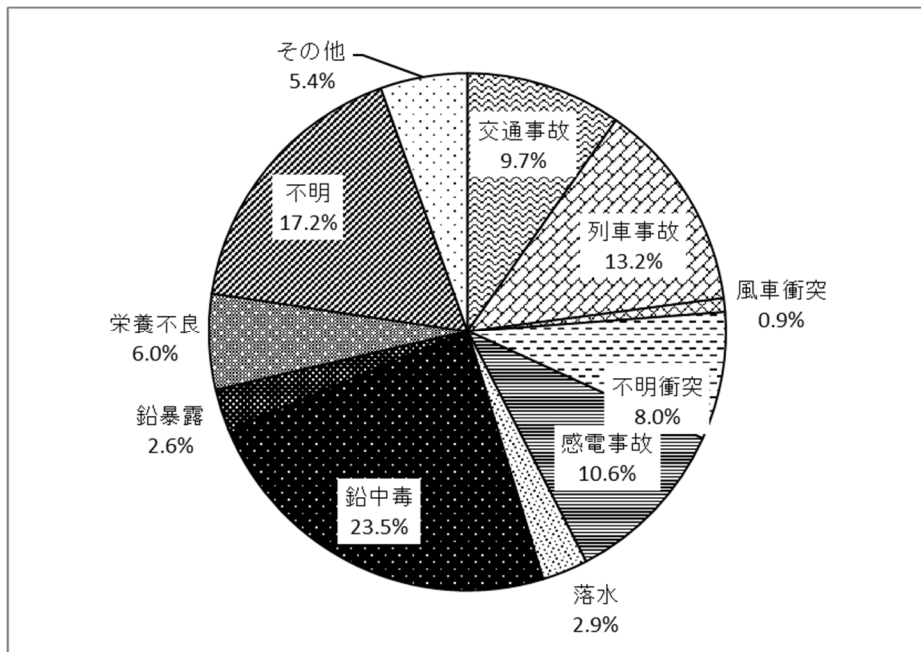


図7 オオワシ收容原因別割合 (H12-30 年度)

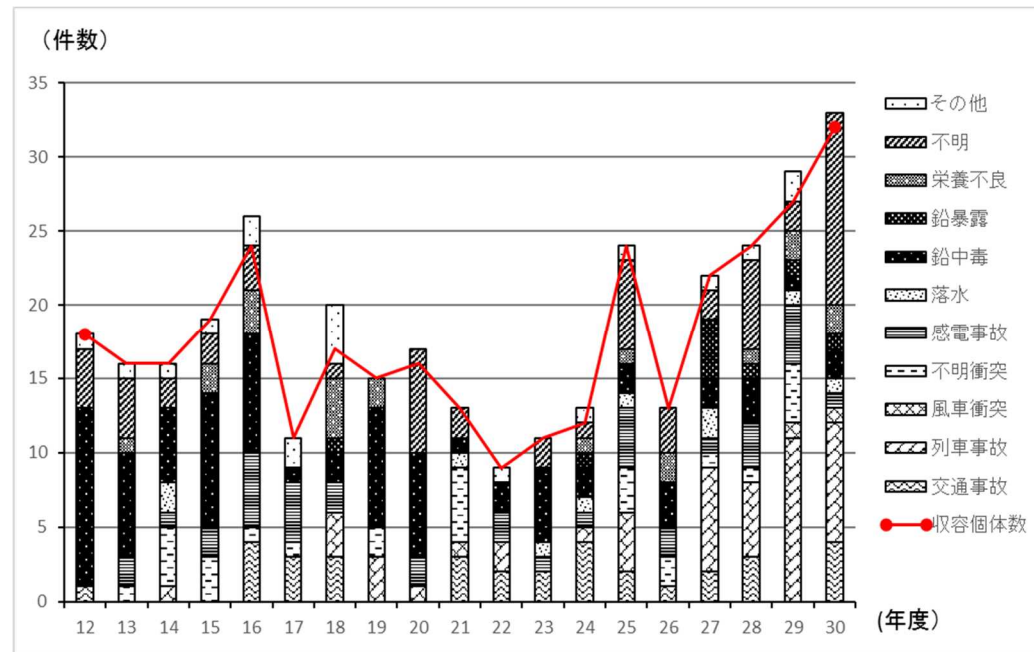


図8 オオワシ年度別收容件数 (H12-30 年度)

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体があるため。